

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690400086		
法人名	社会福祉法人 京都眞生福祉会		
事業所名	グループホーム 京都ミモザの郷(なのはな)		
所在地	京都市下京区中堂寺前田町26番地		
自己評価作成日	令和2年3月12日	評価結果市町村受理日	令和2年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2690400086-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83番地1「ひとまち交流館 京都」1階
訪問調査日	令和2年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通の便が良い場所に建てられた、まだ新しい事業所です。玄関横にはシンボルツリーのミモザが大きく育っており、屋上庭園が広々として美しい。管理栄養士による献立が充実していて、刻み・ソフト・ペースト食や、高血圧食、糖尿病食にも対応。郷土料理の日や行事食の特別メニューが月に数回あり、レクリエーションも充実している。看護師が常駐しており、協力医療機関より主治医が定期的に往診に来られることで、医療面も充実している。事業所内でサービスが完結する事なく、社会との繋がりを大切に考え「注文をまちがえるレストランテ」への参加や、新たに地域助け合い活動「居場所作り・ミモザによってこ〜」を地域の方々と一緒に開催し、地域交流室を皆さんにご利用頂くことにより、人が集まる、地域に開かれた事業所となれるよう働きかけています。

ひまわりに同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に唱和することで職員の気持ちの拠り所となっている。広報誌への掲載や事業所内に掲示することで、外部の方にも周知している。 今年度はグループホーム独自の事業所理念を作る動きとなっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所時より施設内の地域交流室を開放しており、町内の地蔵盆や会合にもお使い頂いている。近隣の児童館や保育園とも連携を取っており、児童(園児)と交流会を定期的に開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が当施設のサービスを利用しておられることで自然に情報交換が出来る。定期的に地域参加型行事も開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で運営状況や行事、事故等の報告をしており率直なご意見を頂いている。施設の運営会議で報告し周知している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上で不明な点は必ず相談、報告を行っており、事故報告の際には詳細を説明しアドバイスを受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修を開催し、不適切なケアを理解する機会を設けている。職員同士が連携をとることで互いに確認する環境がある		

京都府 グループホーム京都ミモザの郷(なのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会活動として内部研修を行っており、常に意識を持てるようにしている。京都市の虐待防止のマニュアルを、誰でも自由に閲覧出来るようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をテーマとした内部研修を開催している。また権利擁護に関しての外部研修にも参加することで学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用前にご利用者並びにご家族とお会いして契約書、重要事項説明書を用いて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族の代表に出席して頂き、ご意見を頂いている。施設玄関に意見箱を設置しご家族の要望等会議で周知している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットでの会議で意見を各フロアの主任が持ち寄り施設長管理者を含めた運営会議の場で討議している。また個別に面談も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で就業規則を見直し、働きやすい環境の整備に努めている。また、安全衛生委員会によるストレスチェックや職員の安全面に配慮した取り組みを進めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会による内部研修の案内を掲示し希望者が出席しやすい環境を整えている。新規入職者には施設長がオリエンテーションを実施している。		

京都府 グループホーム京都ミモザの郷(なのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都市老人福祉施設協議会に加入しており、施設長会や研修会を通して情報共有をしている。また、グループ内の他事業所とも連携をとっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から直接伺った事や会話の中で知り得た情報を、ケアプランや支援内容に反映させている。ご利用者の担当職員を決めており、より身近な存在となれるような関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前にご利用者並びにご家族に対して要望を聞きとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅療養管理指導や訪問マッサージ等も必要にご利用者には対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活のなかで洗濯たたみ、食器洗い、米とぎを「一緒にする」を念頭に置き実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にはご利用者の思いや生活の様子を詳細に伝えることにより関係作りを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントにより把握した、人、物、地域との関係を維持できるよう、情報を共有し協議している。		

京都府 グループホーム京都ミモザの郷(なのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や好みの把握を行い、職員が会話の橋渡しをしたり、一緒に手作業やゲームが出来るような雰囲気を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所された方へは面会に赴き自施設での様子を職員に伝えたりグリーンケアの実施		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面接時、ケースカンファレンス等を通じご本人やご家族の希望を伺い、支援内容に取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の面接により本人や家族からの情報収集をしている。外部サービス提供がなされていた場合はその事業所からの情報提供を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス提供する中で状態に変化があった場合には支援記録等に記載し職員一人一人が現状把握すると共に毎月ユニット会議でも随時検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議には看護師や管理栄養士も参加し各職種からの意見、面会時に聞きとったご家族の希望をを共有し、ケアマネがそれを集約して計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、連絡ノート作成し担当職員からの発信や情報の共有をおこなっている。それらの確認を毎月ユニット会議で実践している。		

京都府 グループホーム京都ミモザの郷(なのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模使節のメリットを活かし新たな規定の作成や変更を都度検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時にご利用者が興味を持たれた物や環境などを把握し次回の外出計画を立てたり普段の会話に内容を盛り込んだりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り、かかりつけ医の関係を継続できるように情報の提供や、受診の支援等を施設がおこなっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護、看護の記録を一元化しており、常にお互いの記録を確認できる状態にしている。ユニット会議には看護師も出席しており意見交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーの提供。退院カンファレンスの開催依頼と参加が出来るように努めている。また入院が長期化した場合は		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した際や終末期の対応について、対応可能な範囲を説明し、同意を頂いている。提携病院の主治医とも連携を密に取り、ご家族へのICも行っている。またご家族の希望があれば在宅復帰や、療養型施設、特別養護老人ホームへの入所の支援などを行う		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や、オンコールを行う際の判断等を看護師やリスク委員会が中心となり、繰り返し研修を行っている。またスムーズな対応を行う為、各ユニットに対応の手順をフローチャートにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日昼・夜間想定での避難訓練の実施。夜間の不定期に災害想定での連絡網訓練を行い、非常時に備えている。又、地域での防災訓練や見回りにも参加している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活全般におけるご利用者のプライバシー保護に関しては、ご利用者の意思や尊厳を意識した声掛けを行い対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを出来る限り聞きながら出来るだけご希望に添えるような支援を心掛けている。 また日々の関わりや、本人様の様子や行動から気付けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のご利用者の時間の流れやペースを大切に、望んでおられる過ごし方を優先するよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際に好みの服を選ん頂いたり、お化粧をするなど、その方の望まれるおしゃれを支援している。また、職員がご利用者と一緒に衣替えを行い季節に応じた衣類を準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日各ユニットで炊飯をしており、お米洗いや配膳、食器洗い、テーブルを拭いて頂く等の役割を担って頂いている。レクリエーションとして、食事やおやつを職員と一緒に作る機会を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録、その方の状態に合わせた、食事や水分の提供をしている。また、一人一人の状態に応じて、キザミ食ソフト食や、トロミの対応をしている。		

京都府 グループホーム京都ミモザの郷(なのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕は、口腔ケアが行えているが、昼の習慣づけが難しく、現在は全員が行えていない状態である。口腔ケアを自力で行えないご利用者に関しては、職員が介助を行い、希望者には訪問歯科の利用もしており清潔の保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握し誘導している。また、サインを見逃さないよう観察しながら、気持ち良くトイレで排泄できる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の確保や、オリゴ糖の使用 マイナス2日目から、腹部マッサージ、ホットタオルを施行している。日常でも体操や体を動かす機会をつくり、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めておらず、週に2回のペースで入浴が出来るようにお声掛けをするが、無理強いせず、ご利用者の体調や気分に合わせている。入浴剤など使用し、楽しい時間となるよう心掛けています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロア内での消灯は決まっているが、一人一人の習慣を大切にしている。日中も自由に自室で休むことができる。また、気持ちよく眠れるよう		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の内容を医務室と共有し、職員が常に新しい情報を把握できるようにしている。配薬時も看護師だけではなく、介護職員も必ず確認する。服薬時には名前を読み上げ、ご本人と一緒に確認し、飲み終えるまで見守っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から、ご本人の得意な事、出来る事を探し出し役割を持って頂くことで、能力を維持していただくと共に、活気のある生活を目指します。 買い物や外食に出かけた際には、ご自身で選べる機会を設けている		

京都府 グループホーム京都ミモザの郷(なのはな)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援は行えていないが、お花見や紅葉狩り、植物園などに出かけたり、個別に外食やショッピングモールへの買い物等に同行している。お天気の良いときは屋上庭園や近隣へのお散歩を楽しんで頂いている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所では預かり金をしておらず、ご自身でお金の管理が出来る方も居られない為、外出時や買い物等で必要となった際は、事前にご家族へ連絡をして、面会時などにご持参頂いています。また職員が同行しお金の出来る		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在は、電話希望の方はいない。 今後、希望される方がいたら、都度対応するよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員がご利用者と一緒に、季節毎の作品づくりをしており、廊下やリビングに飾り付けて皆さんの目を楽しませている。汚染物による臭気が残らないよう工夫されており、西日が入る時間にはTVも観にくい為、カーテンで調節している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士でコミュニケーションが取れるように、リビングでの席を配置しており、食事・おやつ時間は出来るだけ一緒に過ごして頂いている。 ご自身で移動が可能な方は自由に過ごしておかれ、お声掛けは、見守りを行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはご自宅で使い慣れた道具や、愛着のある小物類を置いて頂き、ご本人が落ち着いて過ごせるよう、ご家族にもご協力頂き、安心して生活が出来るような設えとなっている。。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合った身近で出来る事を探り声掛け、見守りをしながら、無理せずに行って頂ける様にしている。		